

される交通体系によって変わってゆくだろうということです。高速道路・新幹線がこのことを実証しつつあります。また、将来の交通体系を考える場合は、タイムベネフィットという考えを使ってゆくべきです。交通のレイアウトの際に、日本の国内事情だけではなく、国際的な視野で相互にリスクのある方法をみつけるべきだということです。

村山 私は仕事の関係から、町づくりの具体的な手法の中に改革を試みるべきだと考えています。それは、いま再開発としてやっておりますものは、どっちかといいますと、ビルを1棟か2棟たててこれが再開発です(笑)。それから、市街地内の区画整理ですが面積こそ多いのですが、現実の問題として、火災・震災復興には役立ちますが、密集不良地区に手をつけましても、なかなか思うように進みません。そこで、再開発と区画整理両手法の長所をかみ合わせて、日本のほとんどの市街地である混合不良地区の改造をやる手法を新たに生み出す

べきだと思います。今度土地改良法を改正して、農業生産を上げるという法律の中で工場団地がつくれるということになった。これは現行法上では目的的にはよいことだとは思いますが、これも時代の要求かと思えます。そこで新規開発の地区では土地区画整理法と土地改良法を一緒にした新しい手法も同じように生み出すべきではないでしょうか。役所的な話だととられるかもしれませんが、全然そうではなくて、現在のやり方が、国土の細かい土地利用に無神経ですが、使われ方の実態に即したものができそうな手法を確立して、こうすればこのくらいのものできるのだ、という話の上に立ってあるべき都市像をさがしてゆくことが、“あるべき都市の姿をもとめて”の話と同様に重要だと考えます。

司会 ありがとうございます。それでは一応この辺で本日の座談会を終了させていただきます。

【文責・編集部】

＜特集・都市／終＞

56巻5号 正誤表

ページ	位置	誤	正
16	右欄・上より10	表-5	表-3

海外ニュース

**Darmstadt 工科大学土木工学科に Institut für Informationsverarbeitung im Bauwesen (土木工学における情報処理に関する講座) 新設さる**

近着の Bauingenieur, 1971, 2月号によれば, 上記の講座が新設されて, Privatdozent Dr. Heinz Schwarz 氏が教授に任用されたとある。

ドイツの工科大学の講座組織は, わが国の大学の工学部がお手本にしたものであって, アメリカと違って旧態依然であるように思っていたところ, 珍しい講座がつけられたので紹介する。

H. Schwarz 氏はあまり聞いていない方であるが, 文献で調べてみると, つぎのようなものがある。

1. 構造物の変形と破壊の関係についての手段としてのシミュレーション技術, 工学における数学の応用に関

する第4回国際会議提出論文, Weimar (東ドイツ), 1967

2. 偶然現象の数値的シミュレーションの方法と材料試験と力学に対する意義, コンクリートの力学的諸問題に関する国際的コロキウム提出論文, Dresden, 1968年7月(ドレスデン工科大学科学誌の特別号に掲載)

3. 偶然現象の数値的シミュレーション—土木工学および計画学的問題における概念, 方法および応用, Beton, 1969, pp. 16~22 (これは生コンクリートの運搬, 打設の問題を取り扱っている)

わが国の大学でも講座組織, 教官組織を flexible に考えなければならないだろう。

シミュレーションといえば, わが国では, 交通問題専門のように思われているかもしれないが, 上記1, 2, 3のような方面にも応用できるようである。

【成岡昌夫・記】